

私たちの町の文化財

■第2話 清水寺（長谷寺）

新幹線の線路沿いから花岡山へ登る道路の脇に高い石垣が築かれ、その上に石で作られた立派な円形の山門があります。そこに今回ご紹介する清水寺があります。清水寺は天台宗のお寺で、正式には霊應山清水寺といいます。明治時代に廃寺となった長谷寺(はせでら)を合併したため、長谷寺ということもあります。

境内には五輪塔、多層塔（五重塔）、宝篋印塔(ほうきょういんとう)、十六羅漢像など多くの石造物があります。玉名出身の天台僧である豪(ごう)潮(ちょう)にゆかりの宝篋印塔が二基存在し、そのうちの一つは塔身（塔の中心となるところ）には扉が設けられており、開くと仏様が三体现れるという珍しいものです。豪潮はすぐれた書家でもあり「肥後の三筆（秋山玉山、豪潮、北島雪山）」と呼ばれていました。宝篋印塔の脇にある十六羅漢由来碑は豪潮による揮毫(きごう)で、美しい楷書で碑文が彫られています。現在でも書家が拓本を採りにこられるようです。

本堂には「霊應山」と「清水寺」の扁額があり、その文字は江戸時代の陽明学者である北島雪山によるものです。ここでは「肥後の三筆」の二人の墨蹟を見ることが出来ます。石造物だけではなく墨蹟も同時に鑑賞できるお寺です。

山門の前に立つと、雄大な阿蘇の山なみを眺めることができます。

熊本市文化振興課 稲津暢洋氏

清水寺の階段を登り
あがると独特の形を
した円形の山門がお
迎えしてくれるモン

